

(議 事 概 要)

件 名 令和元年度第3回草津市人権擁護審議会
日 時 令和元年9月27日(金)午後2時00～3時00分
場 所 草津市役所8階大会議室
出席者 委員：17名(7名欠席)
事務局：4名

1. 開会
開会のあいさつ(総合政策部専門理事(人権政策担当))
2. 議題「人権擁護に関する基本方針」の改訂案について
事務局から今後のスケジュール説明の後、資料に基づいて改訂案について説明。

【質疑応答・意見等】

委員 ひきこもりの件について、実態として自分の周囲にも家族等がひきこもりで苦勞を抱えている方がたくさんおられ、ニュース等でも社会問題として取り上げられている。障害者の分野に入れるのが難しいのは理解できるが、その他の人権の現状と課題に入れた方がよいのではないか。

会長 その他関連する質問はありますか。

委員 今年から子ども子育ての会議で若者という視点がいってきた。20頁の部分は小・中学生の視点での記載となっているが、若者の支援についての記載を入れてはどうか。子ども・子育てという記載を、子ども・子育て・若者支援という書きぶりに変えてはどうか。

20頁の③教育の部分の自尊感情という記載について、若者の自己肯定感が低いという事が課題として取り上げられることが多く、自己肯定感という言葉がキーワードになっているため、自尊感情・自己肯定感という記載にした方が市民に伝わりやすいのではないか。

LGBTという記載については、LGBT以外にも性的少数者がいる事を表すLGBTsに変えてはどうか。性の多様性を表せると思う。

5頁に格差の解消を目指すという記載がある。2008年には同和問題に関する実態調査をしていたが、現在は同様の調査を行っているのか教えてほしい。また、過去には「較差」という漢字を使っていた。

6頁の体系図について、過去は「その他の人権」を「様々な人権」と記載していた。「様々」とすると、同和問題、子ども等も含めて様々という捉え方もありややこしい面があるが、「その他」とすると、つけたしのような表現に感じるので「様々」の方がよいのではないか。

「女性の人権」を「男女の人権」に変えた事はよいと思う。

用語の解説について、ライフステージ等、分かりにくい言葉が他にもないのか再度確認してほしい。

事務局 ひきこもりの件について、事務局でもひきこもりは大きな社会問題と認識している。しかし一方で、ひきこもりを悪い事と捉える事について否定的な意見もあり、現時点ではひきこもりを人権課題と位置付けるような社会情勢ではないと考えているため、ひきこもりの記載はしていない。

子どもの分野について、ここで記載する内容は、子どもの人権という事で、20歳、

30歳といった若者の事を記載するものではないと考えている。委員からの意見のとおり、現在市では子ども・子育ての他に、子ども・若者に関する計画を策定している状況であり、子どもと若者の施策を一緒に進めていくという方向ではあるため、つながりがあるという事は記載ができると考えるが、若者に対する施策についてはこどもの人権という分野から外れてくるため記載が難しい。来年施行の子ども・若者支援計画の中身をふまえ、連携が強固になった部分等があれば来年以降、基本方針にも反映を検討する。

自己肯定感を自尊感情と併記することについては、教育委員会に相談のうえ、記載について検討する。

LGBTにsを付けることについて、LGBTQ等、他にもたくさんの性的少数者を表す表記があることは認識している。方針では一般的に分かりやすいと思われるLGBTという記載にしているが、多様性を表す記載方法について検討する。

同和問題に関する実態調査は2008年以降市では行っていない。

その他の人権という記載については、様々という言い方だと、先に書いている障害者や子ども等の問題も一緒に考えるようになりややこしいため、その他の人権という記載に変更した。

ライフステージ等の注釈については、その他の言葉についても確認のうえ、必要なものについては追加する。

委員 ひきこもりが悪いものではないという考え方は分かっているが、だから問題ではないという訳ではないと思う。

事務局 ひきこもりが社会課題であることは認識しているが、人権課題と捉える事については様々な意見があるため、記載をしていない。

会長 そういった問題が生じているという一般情勢として記載ができるのかどうか検討してほしい。その他事務局の意見をまとめると、格差の部分については、実態調査はしていないという事であった。

「様々」を「その他」にしたのはより明確にという目的であり、つけたしの意味ではないという事であった。

言葉の解説が必要なものは再度検討するという事であった。

子どもと若者の施策を一貫して取り組むという方向については記載を検討するが、若者の支援と子どもの支援が混ざらないように、記載方法については検討するという事であった。

委員 調査はしていないという回答であったが、そうであれば5頁の表現はずれているのではないか。不合理な格差の解消と記載があるが、どのように実態を把握して解消をするのか。現状と合っていないように思うので記載について検討してほしい。何ををもって格差があるとかないとか言うのか。

事務局 全て平等になったかという点、こういった方針があることから、調査はしていないが、数字では分からない部分でも全て解消されたわけではないと考えている。(同和問題に限らず) 他人権の分野でも平等でないところがあると考えている。格差の漢字等、記載方法については検討する。

会長 LGBTの記載については、他も参考に検討してほしい。

委員 機能別消防団は個別施策なので文言として入れられないという事は理解しているが、地域の構成員という視点から、外国人人材を活用したという文言を入れてほしい。

事務局 そのような書き方についても危機管理課と相談したが、外国人を活用した取組が現時点では機能別消防団のみであるということから、個別の施策の話になってしまうため記載をしていない。

- 委員 災害の事だけでなく、教育や生活全般の分野でも外国人を活用した取組があるので、そういった事について記載をしてほしい。
- 事務局 災害の分野という認識でいたので、外国人人材を活用した取組が他にあるのか庁内で確認し、記載について検討する。
- 委員 10頁の意識調査の結果について、文章が長すぎるため読みにくく、内容が強調されない。
- 事務局 修正する。
- 会長 パブリックコメント前の意見としてはこれでよいか。特になければパブリックコメントにかける案として承認いただけるか。
- 委員 了承
- 会長 パブリックコメント案としてはこれで承認を得た。今日の意見の反映方法等について事務局から説明してほしい。
- 事務局 たくさんの意見をいただいたので、修正等については会長に相談させてもらい、パブリックコメントは委員の皆さまに事前にお知らせをさせていただいたうえで実施する。その上で、パブリックコメントの結果をふまえて次回3月になる予定だが、最終的な審議をお願いしたいと思う。
- 会長 事務局と私で最終的なパブリックコメント案を確定させるということでよいか。
- 委員 異議なし。
- 会長 ありがとうございます。本日の審議は以上です。